

ジャムヤン・シェーパのチベット仏教史年表

西 岡 祖 秀

I. 序 チベットの仏教史年表のうち最も完備した形式を持つものは、スムパ・ケンポ・イエシェー・ペルジョル Sum pa mkhan po Ye shes dpal 'byor (1704-88) が 1748 年に著した『パクサム・ジュンサン』中のもの (1027 年から 1746 年までの年表) である¹⁾。彼がこの年表を作成するに際して参照したのが、先行業績としてのジャムヤン・シェーパ 'Jam dbyangs bzhad pa (1648-1721) の年表前文²⁾と年表³⁾ (1027 年から 1715 年までの年表で 1716 年の作) である。前者は「ラブチュン」rab byung と時輪タントラとの相応関係や、「ラブチュン」が始まる 1027 年以前の主要事項を記したもので 11 葉からなり、後者は 1027 年から 1715 年までの 689 年間の年表で 26 葉からなる。

II. 年表前文 年表前文に記載されている主要事項についてであるが、スムパ・ケンポの年表前文の記述との比較を考慮して、古代史の最初を飾るソンツェン・ガムボ王の箇所から末尾までを抄訳することとする⁴⁾。

〔年表前文抄訳: fol.9b,1.1 ~ 11b.1.6〕さてソンツェン・ガムボ Srong btsan sgam po は 10 歳になられた 626 年 (丙戌)⁵⁾ に即位された。…中略…635 年 (乙未) にマルポりに宮殿の礎を定め、30 の土堀を巡らし 999 (の堡壘) をもつ「紅い城」を造営された。639 年 (己亥) にネパール王妃が施主になられて、オタン湖 'O thang gi mtsho を埋めラサ・トゥルナン Ra sa 'Phrul snang (大招寺) を建立した。王が御年 20 歳になった時 (644 年), ……ラモチェ寺 Ra mo che'i gtsug lag khang (小招寺) を建立されたが、その時トゥンミ・サンボタ Thon mi sam bho ʼta がチベット文字を作った。……御年 82 歳の 698 年 (戊戌) に二人の妃と共に逝去された。…【fol.10a】…778 年 (戊午) にティソン・デツェン Khri srong lde btsan がお生まれになった。御年 13 歳の時 (790 年) に、王はバ・イエシェー・ワンポ sBa Ye shes dbang po を使者として派遣し、大学僧シャーンタラクシタ Zhi ba 'tsho を招かれた。そのご教示どうりに阿闍梨パドマサンバヴァを招かれた。(彼が) チベットの鬼神を鎮めてヘーポリ (山) に行かれた。王の御年 21 歳の 798 年 (戊寅) にサム

イエー大寺を建造され、4年で完成した(801年)。一説には(王)御年22歳の811年(辛卯)に建立されたともいう。それから説一切有部の比丘12人が招かれ、「試みの7人」が出家した。学者のヴィマラミトラ Vimalamitra, ブツダグフヤ Sangs rgyas gsang ba 等と、翻訳僧、「試みの7人」、沙門ベルツェク dPal brtsegs 等により仏典が多数翻訳された。ついに御年69歳で846年(丙寅)に死去した。一説には【fol.10b】(その死が)10年間秘され、それ以前(836年)にお亡くなりになったともいわれる。……この後に息子ムネツェンポ Mu ne btsan po が統治され、人民の貧富を三たび均等にし、29歳で死去した。その後、弟のティソン・デツェン・セーナレク Khri srong lde btsan Sad na legs が王権を掌握した。仏法の奴僕として大いにつとめられて己酉の年にダクキブ Grags kyi phu で死去した。その真中の息子で王のティ・レルチェン Khri ral can⁶⁾ は、シャンバラ国で法王アジャ rGyal dka' がチェーツイー暦 Byed rtsis を創始した806年(丙戌)にお生まれになった。御年12歳の817年(丁酉)に王権を掌握した。彼は執金剛の化身といわれた。彼の治世にカ Ka, チョク Cog, シャン Zhang の三人等により三蔵の仏典が多数翻訳され、漢式屋根をもつオシンド 'O shing rdo 宮殿が造営された。これまでにチベットの法王により1008ヶ寺が建立されたといわれる。(また)出家者一人につき七戸を給して(仏教を)崇め、すべての翻訳仏典の題名・巻数・奥書等を目録に編纂し、中国・チベットが講和をなした石碑の碑文を草する等のことを行われた。【fol.11a】御年36歳で(841年)死去した。ソンツェン・ガムボが即位された629年(己丑)からレルパチェンが没した841年まで211年が過ぎたのであるが、この期間はチベットにおける「前伝期仏教」bsTan pa snga dar と命名された。……ランダル Glang dar が仏教を破壊したのに堪えきれず、ラルン・ペルギ・ドルジェ lHa lung dpal gyi rdo rje が(ランダルを)殺害した。それから50年が過ぎた952年(壬子)にラチェン・ゴンパラプセル bla chen dGongs pa rab gsal がお生まれになった。それから6年が過ぎた958年(戊午)に大翻訳僧リンチェン・サンポ Rin chen bzang po がお生まれになった。それから15年が過ぎた973年(癸酉)に「後伝期(仏教)」(bsTan pa) phyi dar が始まると一切智者プトゥン Bu ston は主張されている。それから3年が過ぎた976年(丙子)にナナム・ドルジェ・ワンチュク sNa nam rDo rje dbang phyug がお生まれになった。それから2年が過ぎた978年(戊寅)に「後伝期(仏教)」が始まるとドムトゥンパ 'Brom ston pa は主張されている。……戊寅の年から4年が過ぎた982年(壬午)にアティーシャ Jo bo A ti sha がお生まれになった。それから11年が過ぎた993年(癸巳)にドクミ・ロー

ツアーワ 'Brog mi lo tstsha ba がお生まれになった。それ【fol.11b】から 11 年が過ぎた 1004 年 (甲辰) にドムトウンパ 'Brom ston pa がツァギエモ rTswa sgYE mo にお生まれになった。それから 7 年が過ぎた 1011 年 (辛亥) にナクツォ Nag tsho とクトウン Khu ston のお二人がお生まれになった。それから 1 年が過ぎた 1012 年 (壬子) にゲシェー・ダバ・グンシェチェン dge bshes Grwa pa mNgon shes can とロタク lHo phrag の大翻訳僧マルパ Mar pa のお二人がお生まれになった。ナナムパ sNa nam pa がギエル・ラカン (寺) を建立した。それから 2 年が過ぎた 1014 年 (甲寅) にスルチュン Zur chung がお生まれになった。それから 1 年が過ぎた 1015 年 (乙卯) にカーダム (派) のネルジョルパ・アマー・チェンボ rNal 'byor pa Ames chen po がお生まれになった。それから 1 年が過ぎた 1016 年 (丙辰) にゼー・グンパパ・ワンチュック mDzes dgon pa pa dbang phyug がお生まれになった。それから 1 年が過ぎた 1017 年 (丁巳) にチャク・ティチョク Chag Khri mchog とギャガル・チャグナ rGya gar phyag na のお二人がお生まれになった。ドゥメル Gru mer がタンポチェ (寺) を建立した。それから 3 年が過ぎた 1020 年 (庚申) にドム・リンポチェ 'Brom Rin po che がカムに行き、尊師セツウン Se btsun に師事した。それから 7 年が過ぎると、(ヘジラ暦元年の 624 年から数えて)「火空海の年」Me mkha' rgya mtso'i lo (403 年) が過ぎて、この年表の「第 1 ラプチュン」の丁卯の年 (1027 年) が始まったのと、シャンバラ (国) に法胤スーリヤ Nyi ma が即位したのが同時である。ところで現在どの王の時代であるかを考えれば、18 代法胤ハリ Seng ge がシャンバラ (国) の獅子座に登位されてから 90 年経った「第 2 ラプチュン」の丙申の年 (1716 年) である。これから 10 年経つ (1727 年) と 19 代法胤ヴィクラマ rNam gnon が即位されて 100 年間仏教を説かれることになるのである。

Ⅲ. 年表とシャンバラ王伝説 上記の年表前文中に 4 人のシャンバラ王の名がみえ、殊にスーリヤ王の即位年が「第 1 ラプチュン」の初年度に当たることから、ラプチュンとシャンバラ王伝説の密接な関連が窺える。シャンバラ王伝説は『時輪タントラ』に説かれる主要テーマの一つである⁷⁾。田中公明氏の研究によると、釈尊から『時輪』の根本タントラとされる『最勝本初仏タントラ』を聴聞してシャンバラ国に帰国したスチャンドラ王を初代として 7 王 (法王 chos rgyal) を数え、その後 25 王 (法胤 rigs ldan) が出現する。その間、第 10 代サムドラヴィジャヤ王の時代にイスラム教が興起して仏教を圧倒するが、第 25 代ラウドラチャクリン王がイスラム教徒との最終戦争に勝利して仏教を再興するというものであ

る。王名と即位年（ブク流によるもの）を示せば以下のとおりである⁸⁾。チベット語訳名は本年表前文中（fol.7b,1.5～9b,1.1）の記述によった。

〔7 法王〕① Suchandra / Zla ba bzang po（前 878 年没）② Sureśvara / lHa dbang（前 877 年）③ Tejin / gZi brjid can（前 777 年）④ Somadatta / Zla bas byin（前 677 年）⑤ Sureśvara / lHa'i dbang phyug（前 577 年）⑥ Viśvamūrti / sNa tshogs gzugs（前 477 年）⑦ Sureśāna / lHa'i dbang ldan（前 377 年）

〔25 法胤〕① Mañjuśrikīrti / 'Jam dpal grags pa（前 277 年）② Puṇḍarīka / Pad ma dkar po（前 177 年）③ Bhadra / bZang po（前 77 年）④ Vijaya / rNam rgyal（24 年）⑤ Sumitra / bShes gnyen bzang po（124 年）⑥ Ratnapāṇi / Rin chen phyag（224 年）⑦ Viṣṇugupta / Kyab 'jug sbas pa（324 年）⑧ Arkakīrti / Nyi ma grags（424 年）⑨ Subhadra / Shin tu bzang po（524 年）⑩ Samudravijaya / rGya mtsho nram rgyal（624 年）⑪ Aja / rGyal dka'（806 年）⑫ Sūrya / Nyi ma（1027 年）⑬ Viśvarūpa / sNa tshogs gzugs（1127 年）⑭ Śaṣiprabha / Zla ba 'i 'od（1227 年）⑮ Ananta / mTha' yas（1327 年）⑯ Mahipāla / Sa skyong（1427 年）⑰ Śrīpāla / dPal skyong（1527 年）⑱ Hari / Seng ge（1627 年）⑲ Vikrama / rNam par gnon（1727 年）⑳ Mahābala / sTobs po che（1827 年）㉑ Aniruddha / Ma 'gags pa（1927 年）㉒ Narasimha / Mi yi seng ge（2027 年）㉓ Maheśvara / dBang phyug che（2127 年）㉔ Anantavijaya / mTha' yas nram rgyal（2227 年）㉕ Raudracakrin / Drags po 'khor lo can（2327 年）

すなわちジャムヤン・シェーパはこの年表を作成した 1716 年は、シャンバラ国で 18 代法胤ハリが即位してから 90 年目に当たり、10 年後には 19 代法胤ヴィクラマが即位することを明言しているのである。更には上記のごとく 25 代までの法胤の名を挙げていることから、理想の仏教王国・シャンバラの存在を信じ、その 25 代国王による仏教救済を前提として年表を作成したものと言える。なおスムパ・ケンポは『パクサム・ジュンサン』において⁹⁾ その年を「第 23 ラブチュン」の丙申の年であると想定しているが、これは西暦 2376 年に相当する。

1) 拙稿『『パクサム・ジュンサン』の仏教史年表前文』『日本印度学仏教学研究』第 35 巻 1 号、昭和 61 年、pp.306-310 参照。英訳に B.P.Singh: *The Chronology of Tibet According to the Re'u-mig of Sum-pa-mkhan-po*, Bihar Research Society, Patna, 1991 がある。

2) *bsTan pa'i gsal byed chen po bod du rim gyis byung ba'i lo tshigs re mig tu bkod pa'i tshigs chung rtogs gser gyi nyi ma 'od zer bgra ba*. (*Collected Works of 'Jam-dbyans-bzad-pa'i-rdo-rje*, vol.1, Gedan Sungrab Minyam Gyunphel series, vol.40, New Delhi, 1974, V, pp.59-80).

3) *bsTan rtsis re mig bkod pa*. (ib. VI, pp.81-132). スムパ・ケンポのものを含む両年表の

英訳に A.Chattopadhyaya : *Tibetan Chronological Tables of 'Jam-dbyaṅs bṣad-pa and Sum-pa mkhan-po*, Central Institute of Higher Tibetan Studies, Sarnath, Varanasi, 1993 があり, また関連論文に原田覺「チベット仏教史年表 (西暦 1027-1086 年)」『国士館大学文学部人文学会紀要』第 33 号, 平成 12 年, pp.33-48; 「同 (西暦 1087-1146 年)」第 37 号, 平成 17 年, pp.13-33 がある。

- 4) 西暦年への換算については, 山口瑞鳳「チベット史料の年次計算法」『東洋学報』第 63 巻 3・4 号, 1982 年, pp.141-168 参照。
- 5) 後の箇所 (fol.11a,1.1) には 629 年 (己丑) とあり混乱が見られる。
- 6) ここに示されたティ・レルチェンの生没年は年代的に前後の整合性を欠く。例えばプトゥンに従えば, 十千十二支を一周期繰り下げてそれぞれ 866 年, 901 年となる。E.Obermiller: *History of Buddhism by Bu ston*, Part II, Heiderberg, 1932, pp.196-197 参照。
- 7) R.A. スタン著, 山口瑞鳳・定方晟訳『チベットの文化 (決定版)』岩波書店, 平成 5 年, pp.44-47 参照。
- 8) 田中公明「シャンバラ伝説—隠された王国と最終戦争—」『超密教時輪タントラ』東方出版, 平成 6 年, pp.68-89 特に p.82 の「シャンバラ王の統治年代」を参照。ジャムヤン・シェーパは仏誕年次を「丙午の年」(前 915 年)としてチューツィー派 Byed rtsis の説を取る (スムパ・ケンボも同様) が, シャンバラ王の年代に関しては概ねトゥプツィー派 Grub rtsis (仏誕年次を「庚申の年」(前 961 年)とする) の中のプク流 Phug pa の計算法に従っている。ただ 14 代法胤シャシブラバから 17 代法胤シェリーパーラまでの即位年について, プク流のそれよりそれぞれ 1 年遅れの 1228 年, 1328 年, 1428 年, 1528 年とするが誤りかと思われる。なぜならジャンバラ王の在位期間は, 10 代法胤サムドラヴィジャヤの 182 年間と 11 代法胤アジャの 221 年を例外として, これ以外の法王・法胤はすべて 100 年間とされているからである。また彼自身, 上記の年表前文中において 18 代法胤と 19 代法胤の在位期間を 100 年と考えていたことによる。
- 9) *Collected Works of Sum-pa-mkhan-po*, vol.1, Śata-piṭaka series, vol.214, New Delhi, 1975, p.50,1.2 (fol.25b,1.2); S.C.Das : *PAG SAM JON ZANG*, part 1, Calcutta, 1908, p.40, 1.2 参照。
(紙幅の関係上, 注記は最小限に止めた。)

〈キーワード〉 ジャムヤン・シェーパ, スムパ・ケンボ, チベット仏教史年表, シャンバラ国, ラウドラチャクリン

(四天王寺国際仏教大学教授)

88. The Chronological Table of Tibetan Buddhist history of 'Jam-dbyangs - bzhad -pa

Soshū NISHIOKA

The Chronological Table of Tibetan Buddhist history of 'Jam-dbyangs-bzhad-pa precedes the famous chronological table of Sum-pa-mkhan-po. A feature of both chronological tables is that they were written in acceptance of the legend of the country of Shambhala, as taught in the *Kālacakratantra*. Namely, they record that the 25th generation Raudracakrin king of the ideal Buddhism kingdom Shambhala will win the final war with Islam, reviving Buddhism. Sum-pa-mkhan-po projects the date of this event to be A.D. 2376.

89. Chinese Buddhism's Treatment of "Zhai": A propos "Zhajiang"

Tsui-ling WANG

The Chinese word "*zhajiang*" is a binom consisting of two characters: the first is "*zhai*", the second "*jiang*". This particular diction makes occasional appearances in the Chinese Buddhist Canon, monastic biographies, and the Chinese Official Histories. However, its occurrence in the latter source is comparatively rare and mostly limited to the *Nan/Bei Chao* records. Other than its stereotypical Buddhist-related connotation, the word "*zhajiang*" has a history dating back to the Chinese bone inscriptions. Moreover, the word "*zhai*" is still frequently used in today's conversation such as *zaozhai*, *liuzhai*, *baguanzhai*, *changzhai*, *sengzhai*, *zhaiji* etc. all of which signifies its realistic nature and close interfusion into the secular sphere. Because of its multidimensional facets, a full study of the current topic would involve analyzing Buddhist rituals, the development of "*jiangchang*", discussing ancient literature, philosophical debates as well as textual studies of the Confucian, Daoist and Buddhist canons and their commentaries. However, in this paper the author wishes to focus solely within Chinese Buddhism and through critically analyzing its linguistic nature, and surveying primary sources that dis-